

ブラジャーの着衣時の変形について

○菊池直子* 久慈るみ子*² 大野静枝*³(* 県立盛岡短大, *² 尚綱女学院短大, *³ 東京家政大)

〈目的〉既報¹⁾では、古着ブラジャーの人体側面から背部にかけて密着するフレーム部の疲労分布をとらえ、後ろ中心付近およびストラップ付け位置の疲労が大きくカップサイドの疲労が小さいこと、疲労程度の大きさが左右フレームで異なることを報告した。このような偏った疲労分布は、長期間の着用と洗濯の繰り返しによるものであるが、とくに着衣時の皮膚の伸びに追従した伸長変形が主な要因になっていると考えられる。そこで、フレーム形態の異なる2種類のブラジャーについて、円型捺印法により円形の面積変化から着衣時の変形傾向を検討した。

〈方法〉被験者は2名である。測定部位は、フレーム全体を網羅するように左右フレームにそれぞれ18ヶ所を設定した。各部位に予め直径15mmの円形を印し、立位正常、前屈、左腕上挙、右腕上挙、左回旋、右回旋の6姿勢における円形の面積を測定した。

〈結果〉隣接する部位間の面積の大小関係は、立位正常姿勢で大きい値を示す部位が他の姿勢においても比較的大きく、逆に立位正常姿勢で小さかった部位は姿勢を変化させても小さい値を示す傾向が認められた。面積の大きい部位は、試料間でやや異なるが、ストラップ付け位置、フレーム下方の後ろ中心付近であり、疲労の顕著な部位¹⁾と一致することを確認した。また、立位正常姿勢と他の姿勢との面積の差から変化量をもとめると、前屈姿勢ではフレーム下方の部位に変化量が大きくあらわれた。腕上挙姿勢では腕を上げた側のフレームの変化量が大きく、回旋姿勢では回旋方向と反対側のフレームに大きな変化量があらわれた。

1) 菊池, 佐々木, 久慈, 大野: 家政誌, 37, 10, 871 ~ 876 (1986)